

1. 基本情報

- (1) 国名：セントルシア
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：セントルシア島内カルデサック川流域
- (3) 案件名：カルデサック流域橋梁架け替え計画（Project for Reconstruction of Bridges in Cul-De-Sac Basin）
- (4) 事業の要約：本事業は、首都カストリーズと国際空港を結ぶセントルシア島東海岸道路における、橋梁の土砂災害対策のための改修（3 か所）を通じて、主要幹線道路における通行の安全性及び交通の効率性の向上を図り、もってセントルシアの防災・環境対策に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国における防災セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
セントルシアは、大型のハリケーン、洪水を始めとする災害による大きな影響を受けやすい国であり、気候変動リスクの観点から世界で 160 か国中 14 番目に脆弱な国として位置付けられている(Global Climate Risk Index 2015; Germanwatch)。直近では、2010 年 10 月のハリケーン「トマス」の総被害額 225.1 百万米ドル（2010 年 GDP 比 18.1%）、うちインフラ被害 145 百万米ドル（同 11.7%）、2013 年 12 月のクリスマス豪雨では、総被害額 75.9 百万米ドル（2013 年 GDP 比 5.7%）、うちインフラ被害 70.6 百万ドル（同 5.3%）となっている。このようにハリケーンに伴う災害によって甚大なインフラ被害を受けており、島内主要道路における自然災害に対する脆弱性の軽減及び交通・物流の安定的な移動ルートの確保は喫緊の課題である。中でも、島内の物流における最重要幹線である東海岸道路（日交通量約 15,000 台／日）は中央丘陵部を抜けるルートであり、洪水、地すべりなどの自然災害リスクが高く、災害が発生した場合には、長期の通行止めと、それに伴う大幅な迂回を強いられることになる。これに対してセントルシア政府は、2006 年から National Hazard Mitigation Policy を掲げ、国内の災害リスクを軽減するために限られたリソースの有効的な活用を目指しているが、技術、資金面が不十分な状況にあることから、災害リスクの軽減の観点から最も優先度が高い 3 か所の橋梁の洪水・土砂災害対策について、我が国に協力を要請した。
- (2) 防災セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け
我が国は、2014 年 7 月に「日本の対カリコム政策」を発表しており、その中で小島嶼国特有の脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力の分野として防災を掲げている。本事業は、我が国の対セントルシア国別援助方針の重点分野「防災・環境」のうち開発課題「防災・環境問題改善」、「防災・環境問題改善支援」プログラムに位置付けられており、主要道路の防災機能の強化は、災害時の避難路、物資の輸送路確保に資するため、これら方針に合致する。これまでの当該分野における支援実績として、技術協力プロジェクト「カリブ災害管理プロジェクトフェーズ 2」（2009

年～2012 年)、個別専門家「カリブ地域防災管理」(2015 年～2017 年)が挙げられる。

(3) 他の援助機関の対応

世界銀行が東海岸道路の洪水・地すべり対策(本事業とは異なる橋梁及び道路)を「Saint Lucia Disaster Vulnerability Reduction Project(総額 68 百万米ドル)」において実施中。

(4) 本事業を実施する意義

本事業は、セントルシア政府の課題・開発政策、我が国の援助方針にも合致することから、我が国が本事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。

なお、セントルシアの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。

セントルシアは、ハリケーンや洪水の多発等自然災害に極めて脆弱であり、人命及びインフラへの被害が甚大であるところ、災害による被害の拡大や再発を避けるために迅速な対応が必要であり(「緊急性・迅速性」、人間の安全保障の観点から、個人の尊厳、生命、生活に対する脅威への対応が必要である(「人道上のニーズ」)。

したがって、本事業は、無償資金協力の供与が適当と判断できる。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業は、首都カストリーズと国際空港を結ぶセントルシア島東海岸道路における、橋梁の土砂災害対策のための改修(3 か所)を通じて、主要幹線道路における通行の安全性及び交通の効率性の向上を図り、もってセントルシアの防災・環境対策に寄与するもの。

② 事業内容

i. 施設、機材等の内容

【施設】カルデサック橋、フェラン橋、ラビン・ポアソン橋の架け替え、橋梁周辺の護岸防護工、取付け道路の建設、既存道路の盤上げ

ii. コンサルティングサービス／ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、施工管理、橋梁維持管理などに対する技術講習・セミナー等、協力準備調査を通じて詳細確認

iii. 調達・施工方法：協力準備調査を通じて確認

③ 他の JICA 事業との関係

セントルシアにおいて実施された技術協力プロジェクト「カリブ災害管理プロジェクトフェーズ 2」(2009 年～2012 年)、では、道路や橋梁を始めとした公共インフラの防災対策を強化するため、社会基盤運輸省担当部局の技術者の育成を図った。現在派遣中の個別専門家(広域)「カリブ地域防災管理」(2015 年～2017 年)では、広域セミナーを通じた技術交流などが予定されており、本事業との連携が期待される。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制：社会基盤運輸省（Ministry of Infrastructure, Port Services and Transport）

② 他機関との連携・役割分担：協力準備調査にて確認する。

③ 運営／維持管理体制：協力準備調査にて確認する。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：□A ■B □C □FI

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる道路・橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大ではないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(4) 横断的事項：調査を通じて確認

(5) ジェンダー分類：ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

(6) その他特記事項：なし

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

過去の対ネパール無償資金協力「シンズリ道路第四工区緊急復旧計画」の事後評価等では、ハード面の支援のみならず道路建設に際しての維持管理、防災対策、災害復旧技術の普及などに対する技術協力によるソフト面の支援の重要性が提言・教訓として指摘されている。

本事業は、橋梁の架け替えによるハード面の防災対策事業であるが、上記提言・教訓を踏まえ、橋梁維持管理などに対する技術講習・セミナー等のソフトコンポーネントを通じた同国関係者への技術移転の実施を検討する。

以 上

[別添資料] 地図

「カルデサック流域橋梁架け替え計画」地図

